



Fig. 5. a. *Cladonia subdecaryana* Yoshim.
b. *Cladonia pityrea* (Flk.) Fr. f. *macrocephala* Asahina.

吉村庸君は四国伊予，東赤石山（1450 m）で採集した一標本を新種として *Cladonia subdecaryana* Yoshim. なるものを設立した。その際筆者の腊葉（現在は TNS）も検査してその約九箇の標本はこの新名のラベルを貼付した。是等の標本はその大部分が本州の各地で採集されたもので日本之地衣，第 1 冊 p. 213 には *Cladonia pityrea* f. *Isignii* Nyl. の名で記載されて居る。但しその中に故吉永虎馬氏の送品が弐個ある。その一つは 1934 年 9 月 9 日の日附で土佐，長岡郡白髪山で採集されこれに筆者は 34089a と番号を与え他の一つは同年 8 月 9 日に同処で採集されたものでこれには 34089b の番号を与えた。以上 2 つの標本の中 34089a の方は明に筆者の当時命名して居た *Cl. pityrea* f. *Isignii* Nyl. と一致するが 34089b の方

は明に異なるもので筆者は腊葉庫での呼名 *Cl. tosaensis* を与えて居た。吉村君の *Cl. subdecaryana* はその記載や挿図でも分る如く上記 2 種の混合であるのでそれを *Cl. tosaensis* と呼んだものに残し又 f. *Isignii* も其文献上の記載が甚だ曖昧である理由から f. *macrocephala* と云う新品種として処理することにする。吉村君の論文中の附图 Fig. 2 の中で A, D は確に *tosaensis* 型即ち *subdecaryana* に属し B と C とは f. *Isignii* 改め f. *macrocephala* に属すると信ずる。吉村君は基本葉体がよく発達する点を *pityrea* と異なる性質と取上げて居るが *pityrea* にも可なりよく発達した基本葉体があるとは Sandstede も認めて居る。

□岩手植物の会：岩手県植物誌 B5, 703 頁，22 写真図版，地図 6 葉，1971 年 3 月，3500 円。昨秋の岩手国体に間に合わせての初版に追加訂正をして，第 2 版 500 部の限定出版である。全巻を 12 章に分け，11 頁を地形，地質と最新地質時代に於ける植物界の変遷の概説，22 頁を植生概要に当て，32 頁に亘って区系地理を論じてある。次に注目すべき種類と天然記念物を解説し，本書の主要部分たる植物目録に入る。林業樹種や園芸植物も含めて 2631 種を産することを報じ，中に故菊地政雄氏考定の未発表名が少からず目に入る。樹木名には村井三郎博士の林学側からの目が到る処に光っているのが分る。北上山地の石灰岩地や蛇紋岩地に見る残存分子，裏日本型気候の下での奥羽山脈フローラ，暖寒流の消長を反映しての沿岸帯フローラ，これらの中に多数の北限又は南限種が見られる。岩手植物の会（猪苗代正憲），振替口座 盛岡 5845。

（水島正美）